

120704 小さなハンター

日当たりの良いハイキング道を歩いているときに、心と脇の草むらを見てみると…

小さな「カマキリ」たちがたくさんいました！

体長は2～3cmの個体が多いですが、それぞれ“餌場”のテリトリーを持っているのか、かたまっているのではなく、結構散らばっていました。

母親は、産卵を終えると寿命が尽きますので、既に昨秋（冬）には息絶えています。

ということは…

彼らは生まれてすぐに、誰に教わることもなく“自活”しなければならない運命なのです。

餌がうまく捕れないと餓死してしまいますし、まだまだ小さな体では、外敵に捕食されてしまう危険とも絶えず背中合わせなのです。

そして、無事に成虫にまで育つのは、オオカマキリの場合、一つの「卵のう」から誕生する子ども（200～300匹）の1%くらい（2～3匹）にしか過ぎないと言われていいますので、超過酷な“生存競争”が繰り広げられていくのでしょうか…

◆写真①： カマキリの子ども発見！

◇ササの葉の上にいる個体を見つけました。

◆写真②・③： 獲物を捕獲したようです！

◆写真④： 拡大して見ると…

◇小さな蛾みたいな虫を、頭からかぶりついているようです。

◆写真⑤： 地面では「クロオオアリ」が…

◇体長1cmほどの「クロオオアリ」が、自身と同じくらいの大きさの“獲物”を運んでいました。









